

相次ぐストーカー絡みの重大事件を受け、警察庁は本年度から、ストーカー加害者に治療を促す取り組みを始める。一般社団法人・男女問題解決支援センター（東京）代表理事で、加害者治療を手掛けってきた精神科医の福井裕輝さん（44）が担当する予定だ。現状と課題を聞いた。（聞き手・北川成史）

# 恨みの中毒解きほぐす

## 加害者治療 精神科医 福井氏に聞く

神奈川県逗子市のストーカー殺人事件などを見る  
と、加害者はストーカー行為で逮捕されたが、社会復帰した後も未練を断ち切れず、恨みを募らせた。逮捕だけでは、被害は防げない。思いこみと現実のギャップを認識させる「認知行動療法」が有効だ。

私は五、六年前から、約

百人の加害者を治療してきた。受診後、相手に傷害などの危害を加えた人はいない。本年度は警察庁と連携し、ストーカー規制法に基づく文書警告を受けた関東の加害者約二十五人を治療

「愛情だ  
ストーカー犯罪」



「将来は全国に、加害者治療に取り組む公的機関ができれば」と話す福井裕輝さん＝東京都港区で

し、効果を検証する。  
加害者は、自分を捨てた相手を恨み、心に痛みを抱え、不幸を与えるとする。感情の整理が苦手なため「恨みの中毒状態」になつている。私は「ストーカー病」と呼んでいる。悪い行為と理解しつつも、欲求を抑制する脳内回路が壊れている。

最初のカウンセリングでは「彼女を救いたかった」という男性の言い分を受け入れた。その後「四六時中、相手を考え続けるのは大変でしょう。苦しみを終わらにしませんか」と感情

暴力規制法違反罪で執行猶予付き判決を受けた。

治療は一、二週間に一回のペースで、約三ヶ月かかり

て、時間をかけ、欲求を抑制する回路の回復を待つ。五年ほど前、妻子を持つ六十代の男性評論家を診察した。三十代の女性に好意を持ち、「収入がよくない夫と暮らすあなたが哀れだ」と暮らすあなたが哀れだ」と書き進めたい」。快方を示す未来についての言葉が出

る。カウンセリングを重ねるうちに、会話の内容も家族や仕事に向けられた。「いろいろあつたが、仕事に復帰し、頓挫したままの本を書き進めたい」。快方を示す未来についての言葉が出

最近の主なストーカー事件と規制強化などの動き	2011年12月	長崎県西海市で、元交際相手の男（27）からストーカー被害に遭っていた女性の祖母（77）と母（56）が、男に刺殺される。女性の家族は千葉、長崎、三重の3県警に繰り返し相談していた
	12年11月	神奈川県逗子市で、女性デザイナー（33）が、元交際相手の男（40）に刺殺される。男は自殺。男は11年、女性への脅迫容疑で逮捕され、執行猶予付き判決で社会復帰していた
	13年7月	ストーカー規制法改正で執拗なメールも規制対象に
	10月	東京都三鷹市で女子高生（18）が警視庁に相談した当日、元交際相手の男（21）に刺殺される
	12月	警察庁が全国の警察に、加害者の逮捕を最優先させるなど対策強化を通達
	14年2月	群馬県館林市で女性（26）が射殺された後、元交際相手の男（39）が自殺。男は13年、女性への暴行容疑で逮捕され、罰金刑で社会復帰していた
	4月以降	警告を受けた加害者に、精神科医らの治療を促す取り組みを開始

※年齢は当時